

楽々亭通信

発行：NPO法人没イチの会・京都



二月の楽々亭を

開催いたしました

「聴聞の心得」

本願寺派布教使

安堂芳雅

こんにちは、安堂です。

お寺の法要やご法事で、法話（仏さまのお話）を聞くことがあると思います。

これを聴聞といいます。読経後で、脚の痛さと眠気がピークにくる頃ですね。

なかなか辛いものですが、せつかくのご縁ですから大切にしたいものです。

そこで、今月は仏さまのお話を聞くコツのお話です。

聴聞の心得には、「この度のこのご縁は、我、一人の為と思うべし」とありま



した。

どうやら、「今聞いている仏さまのお話は、他の誰でもない、私のために説かれた話だ」と聞くのがポイントのようです。

■お寺で、聞いたご法話を・・・

このようなお話でした。人の世のはかないことは、年齢には関係ありません。

お年寄りにも、若い人も死は同じように訪れるし、必ずしも老人が早く死に、若い者が後で死ぬとは決まっていはいないのです。

なのに、私たちは自分が死ぬと知ってはいても、それが今日、明日の事だとは思わないし、まだ自分の番ではないとタカをくくつ

ています。

「続いて葬儀会館で見た女性の話をなさいました。」

背中が曲がったご婦人が、杖を頼りの会葬です。

このお方は、短いスカート丈が気になっていたのでしょうか。

「次の時までには、裾出ししとかなあかん」「次の時までには、裾出ししとかなあかん」と、ずつとつぶやいていました。

周りの人たちはそれを聞き、ニヤニヤ顔です。

「生まれたいものは必ず死ぬ」と、どれだけ聞いても自分が死ぬとは思えないのが私たちですね。

しかも「老少不定」の理の中では、その死には順番はありません。というお話でした。

布教使さんの軽妙な語り口にみな大笑いでしたが、「母も一緒に参ってこの話を聞けばよかったのに」「お母さんも同じようなことをブツブツ言ってるんじゃあななろうか、心配やなあ」と思いながら私は聞いていました。

もちろん、帰ってすぐ母に話しました。

今日は、「老少不定」のお話だったよ。

会葬の間ずっと、次の葬儀に着ていく服の心配してね、歳の順番なら次は誰がみてもそのおばあさんやのに、まったくわかってなくて、面白かったわ。

お母さんも気を付けないで、と一気に話しました。

しかし、一緒に笑ってくれるだろう母はニコリともしません。

しないどころか怖い顔で、「布教使さんは何の話をしなされたんや」と聞き返すのです。

「ほんまに老少不定の話なら、年寄りも、若者も、今日生れた赤ん坊も、死は順番ではないということじゃあなかつたんか」（でた！広島弁）と言いつちました。

母は、ご婦人を失笑する会葬者と、その話を聞いて笑う私を問うていたので。

死ぬのは、自分より母が先に違いないと得手勝手な話に聞いている私に、誰の話を聞いてきたのか？あんな話として聞いてきたのか。

生まれてすぐ終わったかもしれない私のいのちも生きていないのちを本当に生きていることを本当にはわかってない私だと、会葬の女性のすがたを通し

て布教使さんは説いてくださったんじやあないか。

母は一生懸命に、仏さまの話は人ごとに聞いては何にもならないと論してくれたのです。

■我、能く汝を護らん

仏さまと私の関係は、我と汝の関係です。

仏さまはほかの誰でもないこの私に、「あなたをすくう」、「あなたをたすける」と今ここに「ナモアミダブツ」とはたらいて下さっているのに、その仏さまのお話をどこかの、誰かの話として聞くのは、あまりにも勿体ないことです。

■コツをおさえると、慶びを味わえる

この冬の事です。
友達が突然激しい頭痛に襲われました。

まっすぐに歩けないどころか、しゃべることもままならないので、これは脳の血管が破れたに違いないと思わずに「119番」救急車を要請したそう

です。

しばらくすると、ピーポー、ピーポー、と聞こえてきた。

サイレンはどんどん大きくなってきます。それは、間違いなく救急車がこちらに近づいてきていることを知らせています。

彼は言いました。

今まであのサイレンはうるさくて仕方なかったけど、あの時はサイレンが、「たすけにきたぞー」 「もう大丈夫だぞー」 っつて聞こえて、嬉しかった。

“私の為に”と聞いて初めて味合える慶び、それがお聴聞にあります。



楽々亭 3月の予定

3月12日(火)

境谷会館(場所変更)

午前10時~12時



楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北脊掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。